

2013-14（平成 25 年度）ナイトシャトルバス元気号の運行実績について

運行内容の比較

項 目	22年度	23年度	24年度	25年度
運 行 期 間	H22.12.18～H23.3.6 79日間	H23.12.17～H24.3.4 79日間	H24.12.22～H25.2.28 69日間	H25.12.21～H26.2.28 70日間
停 留 所	30停留所	31停留所	26停留所	25停留所
運 行 時 間 運 行 便 数	ブルーライン 17:40～23:20 5便	ブルーライン 17:40～22:09 4便	ブルーライン 17:40～22:09 4便	ブルーライン 17:25～22:00 4便
	レッドライン 18:10～23:16 4便	レッドライン 18:10～23:16 4便		レッドライン 17:30～22:05 4便
	グリーンライン 17:00～21:42 3便	グリーンライン 17:00～21:42 3便	グリーンライン 17:50～22:46 3便	グリーンライン 17:00～22:06 3便
利 用 料	200円/回 (大人・小人一律) 未就学児童6歳未満無料	200円/回 (大人・小人一律) 未就学児童6歳未満無料	200円/回 (大人・小人一律) 未就学児童6歳未満無料	300円/回 (大人・小人一律) 未就学児童6歳未満無料
回 数 券	6枚綴り、1,000円	6枚綴り、1,000円	6枚綴り、1,000円	-
そ の 他	・回数券の販売を開始した	・行き及び停留所看板へ村内及び会社の社名及び電話番号を標記した ・停留所にみそら野アバンティ前を追加した	・乗車実績の少ないバス停が多い1路線（レッドライン）を休止した ・運行期間を短縮した	・運賃を200円から300円に値上げした ・前シーズンの課題であった「乗り残し」を解消するため、中部エリアを2ラインとした ・効率運行のためルート・停留所の一部を見直した

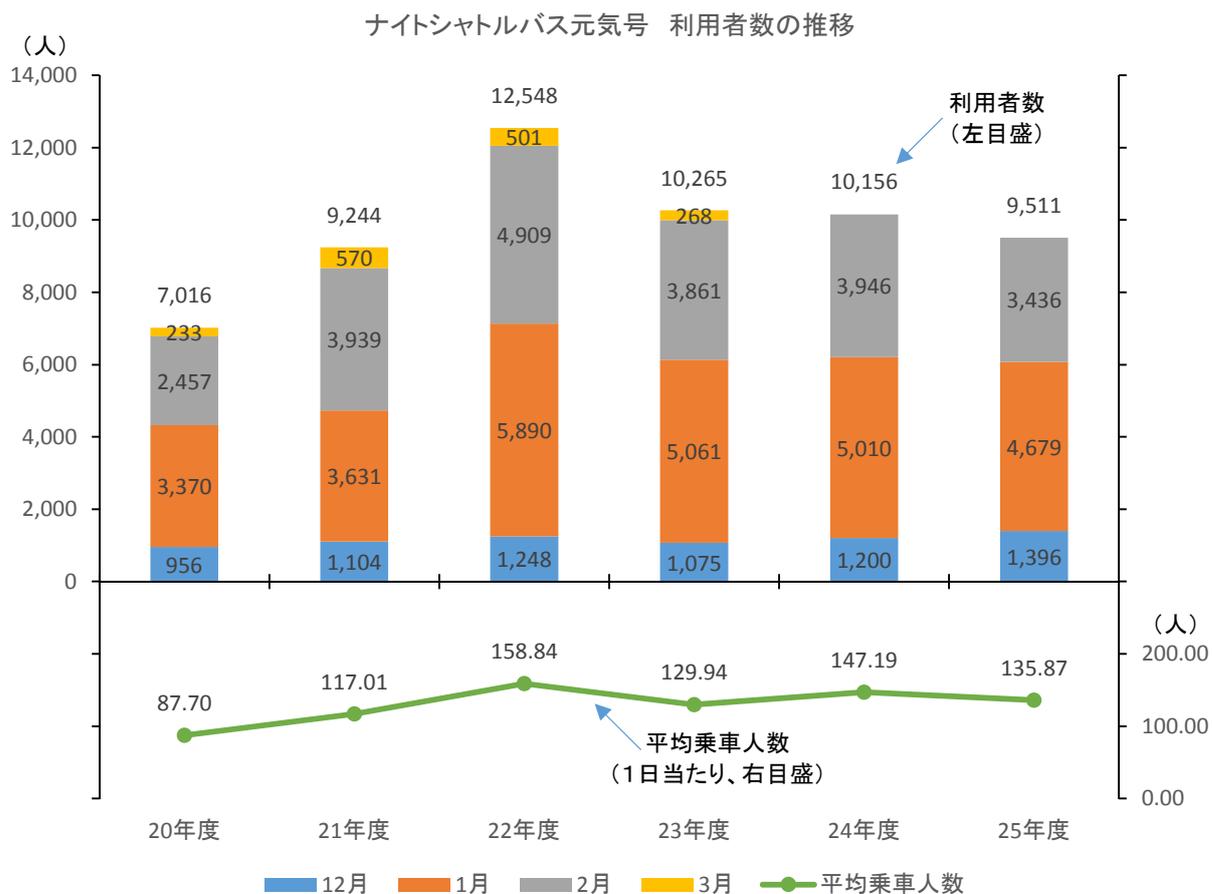
2013-14（平成 25 年度）運行目的

項 目	運行計画の策定方針
(1) 運 行 目 的	居住エリア又は宿泊エリアと飲食店及び商業施設を結ぶシャトルバス運行事業を実施することで、住民及び観光客の消費行動の促進を図り、もって村内商業地域の活性化に寄与することを目的とする。なお、運行計画の策定にあたっては、指摘事項 <sup>*</sup> を改善するとともに効率性を重視しながら、利用者の快適性と利便性の向上を図ることとする。

※指摘事項

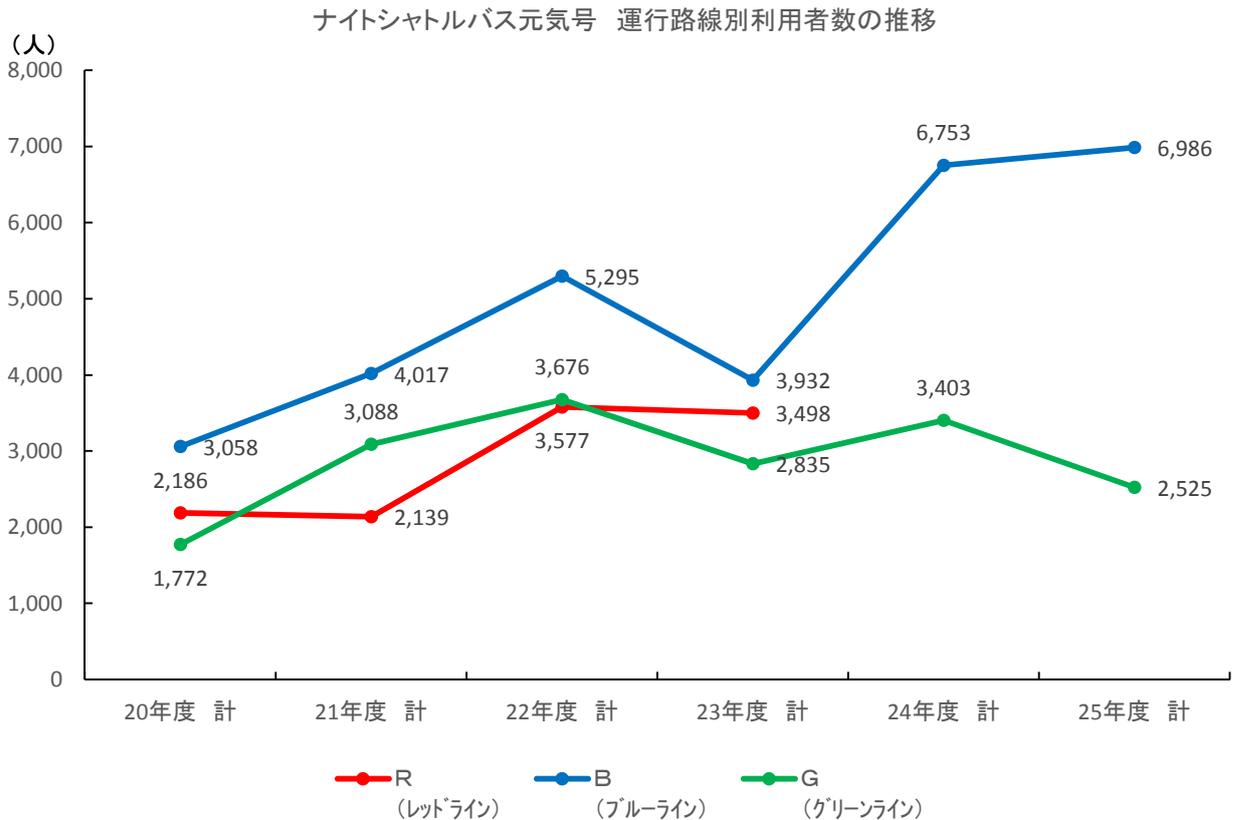
実績を反映したルートや停留所とすること、乗り残しを解消すること、ドライバの休憩時間を十分に確保すること

## 1. 利用者数の推移



- ・平成 25 年度の利用者数は 9,511 人(前年比▲6.4%)、1月(前年比▲6.6%)と2月(前年比▲12.9%)の利用が減少
- ・白馬村観光局交通運輸専門委員会では、利用が減少した理由として主に次の二点が指摘された
  - ①内回りと外回りの運行間隔が短かったこと(「乗り残し」は解消できたものの、外国人観光客の外出時間にマッチしていなかった)
  - ②運賃を値上げしたこと(グループであればシャトルバスを利用するのではなく、タクシーを利用していた(タクシー各社では前年比+10%))

## 2. 運行路線別の利用者数の推移



※ 25年度のB(ブルーライン)の値は、B(ブルーライン)3,967とR(レッドライン)3,019の合計値

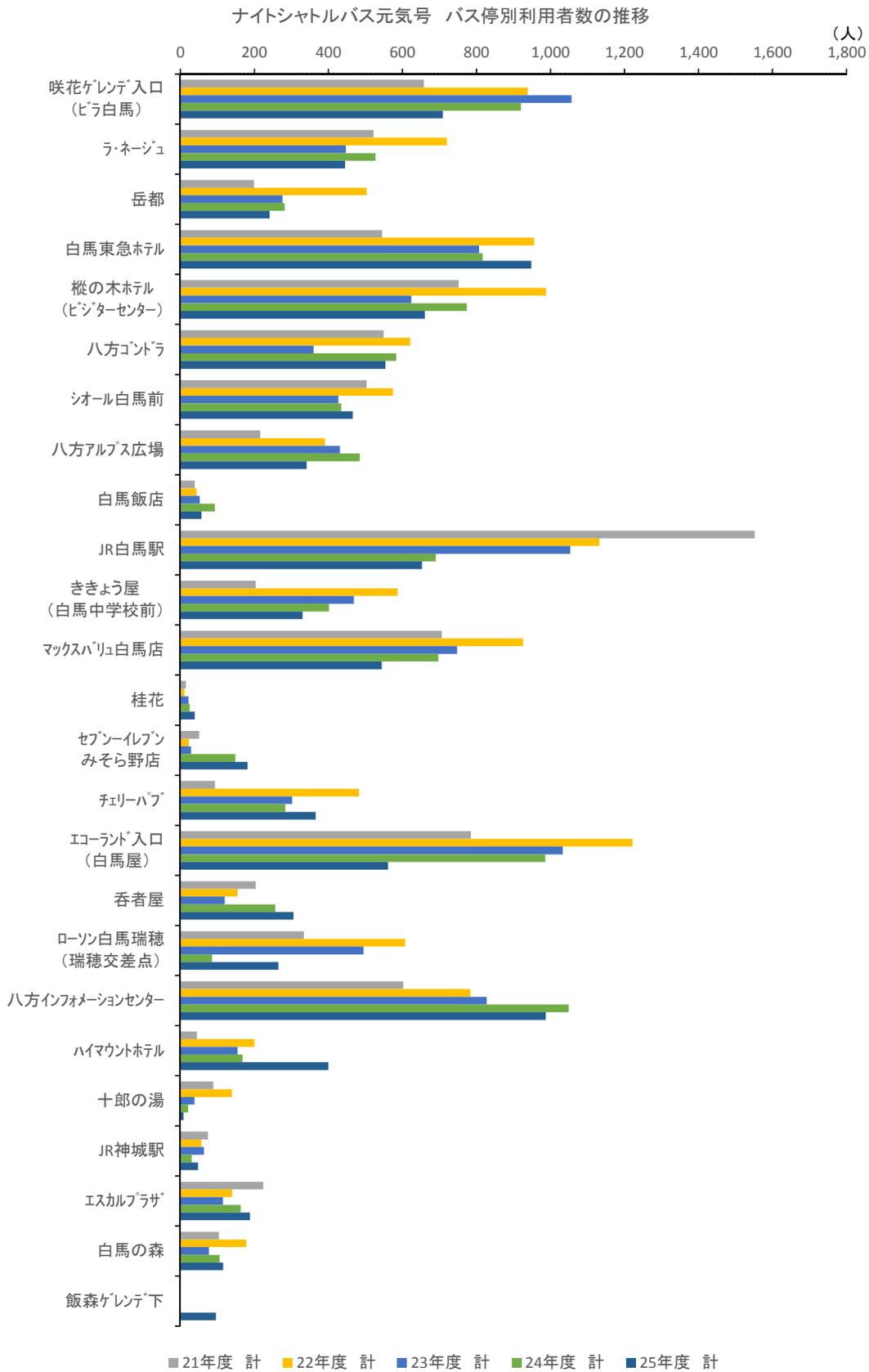
- ・中部エリアを巡回するラインの利用者数はほぼ前年並み、2ラインとしたことにより「乗り残し」は解消できたものの、ブルーラインとレッドラインの運行間隔が短かったこと（5分間）により利用者数は伸び悩んだ
- ・グリーンラインの利用者数は前年比▲25.8%と大きく減少

それぞれのラインを便別にみると、

	レッドライン+ブルーライン			グリーンライン		
	24年度	25年度	前年比 (%)	24年度	25年度	前年比 (%)
1 便	1,911	1,653	▲ 13.5	1,607	791	▲ 50.8
2 便	2,215	2,491	12.5	1,326	1,222	▲ 7.8
3 便	1,556	1,728	11.1	470	512	8.9
4 便	1,071	1,114	4.0	-	-	-
計	6,753	6,986	3.5	3,403	2,525	▲ 25.8

- ・17:00 台に和田野を出発する第1便は、両便ともに利用が減少
- ・特に、17:00 に和田野を出発するグリーンラインの第1便は大きく落ち込んだ（外出時間にミスマッチ）

### 3. バス停別の利用者数の推移



- ・和田野エリアの停留所をみると、ハイマウントホテルと白馬東急ホテルを除いて軒並み利用者数が減少
- ・宿泊施設からは、外出するお客様が少なかったとの声も聞かれた

#### 4. 運賃収入と運行経費の推移

(運賃収入)

(単位：円)

	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度
運賃収入	1,848,800	2,509,600	2,053,000	1,678,000	2,853,300
レッドライン	427,800	715,400	699,600		900,000
ブルーライン	803,400	1,059,000	786,400	1,096,400	1,190,100
グリーンライン	617,600	735,200	567,000	581,600	763,200
チケット販売収入		126,000	77,000	606,000	
広告収入				150,000	157,500
計	1,848,800	2,635,600	2,130,000	2,434,000	3,010,800

・運賃の値上げにより運賃収入は増加したものの、目標（12,000人、3,600千円）には届かず

(運行経費)

(単位：円)

	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度
バス運行費用	8,328,180	8,328,180	8,328,180	4,636,800	7,938,000
日数	79	79	79	69	70
単価					
レッドライン	35,490	35,490	35,490	33,600	37,800
ブルーライン	35,490	35,490	35,490	33,600	37,800
グリーンライン	34,440	34,440	34,440		37,800
費用					
レッドライン	2,803,710	2,803,710	2,803,710	2,318,400	2,646,000
ブルーライン	2,803,710	2,803,710	2,803,710	2,318,400	2,646,000
グリーンライン	2,720,760	2,720,760	2,720,760		2,646,000
時刻表制作費	220,500	220,500	220,500	194,250	194,250
バスチケット作成費	357,000	148,050	148,050	147,000	
バス停看板作成費	412,650			389,550	66,150
バス電光掲示板作成費	31,500				
バスグッズ制作費	73,500	88,200	126,000		371,700
バス停時刻表変更		409,500	519,225		
バスチケット販売所表示シール		105,000	89,250		
諸経費		18,070		16,614	21,010
計	9,423,330	9,317,500	9,431,205	5,384,214	8,591,110

・1ライン増加に加え、燃料高騰により運行単価が上がったためバス運行費用が増加

・運行経費と運賃収入の差額5,580,310円は、一部を白馬村観光局が、残りを白馬村がそれぞれ負担

## 5. 来シーズンの運行に向けて

平成 26 年 5 月 23 日（金）、白馬村地域公共交通 観光交通システム検討委員会を開催し、2013-14（平成 25 年度）ナイトシャトルバス元気号の運行実績を報告するとともに、来シーズンの運行に向けて意見交換を行った結果、次の方針で運行計画を作成することが確認された。

・運行計画のベースは 3 ライン、運賃 300 円とし、次の点を改善する

- ①主に外国人観光客の外出時間にマッチしたタイムテーブルとする
- ②利用者の利便性と快適性、利用実績といった観点からライン・停留所の配置を再考する
- ③回数券購入乗車方式を再開する